

1 解答例

- (問2) ① (解答例) 17年の間に、中国との貿易は輸出額で約15倍、輸入額で約9倍も増えているが、アメリカ合衆国との貿易では、輸出額・輸入額ともにわずかに増えただけである。
- ② (解答例) 輸出品目は、その割合があまり変化していない。輸入品目については、2000年には衣類、機械類などの割合が高かったが、2007年には機械類の割合が非常に高くなっている。
- 理由 これは中国に工場が作られて、日本から集積回路などの部品を輸入し、それを加工して製品を日本に輸出するからだと思う。
- ③ (解答例) 日本にくらべ、約20分の1の賃金で労働者をやることができるので、製品をつくるときにその経費が安くなるという有利な点があるから。

解説と出題のねらい

- (問2) ① <表I>は、日本と中国およびアメリカとの輸出入額を5年ごとに（最後は一番新しい2007年にしています）数字をまとめたものです。ここに明らかな違いが読み取れます。中国との貿易額は年々増えていて、1990年と比べると輸出で約15倍、輸入では約9倍にもなっています。ところがアメリカとの貿易額は、輸出額は少しずつ増え、輸入額も上がり下がりをくり返しながらかし増えています。さらに最近の統計から輸出入の総額が2007年に初めて対中貿易が対米貿易をぬいたことがわかっています。中国とアメリカを対照しながら違いをのべる問題ですから、違いがはっきりしている点を表から読み取って解答しましょう。
- ② <グラフI>から読み取れることは、(1)中国からの輸入品目は7年間で大きく変わったが、中国への輸出品目はさほど変わっていない。(2)中国への輸出入とも機械類が多くの割合をしめているが、よく見ると中国へコンピュータの「集積回路」のような部品を輸出し、中国から「コンピュータ」という製品を輸入している。(3)輸入品目をよく見ると、2000年には生活必需品が大半をしめていたが、2007年では機械・金属などの製品が大半をしめている、などです。
- こうした三つの内容から、最近の対中貿易は、原材料や部品を中国に輸出して、製品を中国で組み立て、日本に輸入していることがわかります。この点を自分の考えでまとめてみましょう。
- ③ <グラフII>では日本企業が中国へ進出している状態がよくわかります。また、<グラフIII>からは、中国の賃金がわが国の20分の1程度だとわかります。すなわち人件費がかなり安くてすむので、中国で製品を作って逆輸入したほうがはるかに安く、大量にできることがグラフから読み取ることができます。公立中高一貫校の入試問題では、細かいところに気を配るよりも、大きな違いや特色を見つけてそれをまとめるようにしましょう。
- ところで、中国の賃金はわが国の20分の1ですが、インドはそれよりも安く、日本を100とすると1.1にしかならず、約90分の1です。これからは、インド製の製品を多く目にするかもしれません。